



マルト便

MARUTO INFORMATION

ホームページが新しくなりました

マルト商事

検索

お客様の笑顔のために...

チャレンジ 

8月号 AUG 2016

<http://www.maruto-shoji.co.jp>



北海道産玉葱



左画像 2016年7月20日北海道栗山地区 右画像2016年7月23日北海道川西地区

は～やくこいこい！北海道産玉葱！

7月29日に北海道を除く全国で梅雨が明けました。関東の梅雨明けは7月28日で昨年より18日遅く、平年より7日遅い梅雨明けとなりました。関東は若干梅雨明けが遅れましたが、全国的にはほぼ平年並みでなかったかと思えます。私の印象ですが、「THE 梅雨」という感じが年々しなくなっているような気がします。梅雨の時期はしとしとずーっと雨が降るイメージだったのですが、ここ数年はドーンと雨が降るような感じです。局地的に極端な降雨となっており、それにより豪雨災害も多くなっている気がします。今年は北海道でも大雨の被害が出るなど今後も日本各地で梅雨の豪雨被害が増えるかもしれません。農作物への影響も避けられませがまずは人の命。地震もそうですが、いつ自分の身に起こるかわからないという防災意識を高めて備えをしていくことが大切だと思います。

備えというと玉葱も府県産がいよいよ終盤に差し掛かってきました。既報の通り今年は佐賀県産が大凶作に見舞われ数量は勿論ですが、品質面も良くない状況が続いております。弊社も夏期は佐賀県産が主体となり、昨年も不作により原料確保に苦労したことから、早い時期から新規産地様との取組強化を図り、仮にある程度の数量減少でも耐えられるような準備をして参りました。しかしながら今年はその予測を大きく上回る大凶作となってしまう、想定を超えてしまいました。

一言で備えといいますが、どのレベルで備えを行うかが非常に難しいと感じています。防災でも一緒だと思います。過去1回だけあった大きな有事に莫大な資金を投じて備えるか、それとも平均的な有事に基準を合わせて備えをするか。弊社の場合、本年度の府県産玉葱については平均的な凶作に耐えられる備えはしていたが、大凶作への備えはできていなかったという形です。弊社玉葱の仕入は、通常は100%協力産地様との契約仕入になります。今後はあるゆる事態を想定して、これまでの慣習・先例にとらわれず産地様、お客様とのお取組みを再構築していきたいと思えます。

その備えの一つと考えているのが北海道産地との取組です。これまでは9月20日から翌5月20日頃までを使

用期間としてきました。今年は府県産不作の備えとして、北海道産使用期間の延長に取り組みました。前年産の冷蔵貯蔵品を7月上旬まで使用し、北海道産スタート時期を1カ月前倒しして8月20日頃からにする試みです。これまで北海道産は8カ月間の使用としていましたが、凡そ10カ月間北海道産を使用する計算です。勿論北海道産玉葱も年によって凶作・豊作を繰り返しています。偏りすぎても良くないのですが、取組の一つとして「これまでは難しい」といわれていたこともチャレンジをしていきたいと思えます。

そして今年も北海道産玉葱の早期使用していく予定です。弊社においてはお盆明けから初入荷の予定です。弊社社員も順次北海道産地を巡回させて頂き、生育・品質を確認に回っている状況です。第1弾として7月20日から栗山地区・岩見沢地区・川西地区の圃場巡回を行ってきました。

栗山地区：全般としては6月の降雨の影響と日照不足の影響を受けているが、ほぼ平年並みの推移とされます。6月下旬に雨が続き続いたことにより、畑が冠水したようなところでは根にダメージを受け、結果葉先が枯れてしまっているような圃場が散見されました。今シーズンは比較的定植作業が順調で早く植えつけが出来たことで、多少葉が枯れても玉太りに影響が出ず概ね良好な出来栄であったように見えました。しかし生産者さんによるバラツキが大きく、生理障害・ペト病が出ている圃場もあり全体予測としては難しいように思いますが、平均すると平年並みという形ではないでしょうか。

岩見沢地区：栗山地区同様の天候ですが、岩見沢地区の方がバラツキが大きいように感じました。葉先の枯れも多くの畑で見られ、また背丈・首の太さも栗山地区より一回り小さい印象でした。生産者様の話では平年並みとのことですが、バラツキがあるように思えます。

川西地区：十勝地区の玉葱は他地区と品種、栽培方法が異なります。タキイ種苗のウルフ・イコルが主力となり、定植栽培ではなく、直播栽培が主体です。今期は播種後芽が出始めた5月8日に過去例にないような砂嵐があり、多くの農作物に被害を与えているようです。風速25mの風が35時間続いたそうです。このため玉葱の生育は1カ月止まった状態となり、生育に大きく遅れが出ています。十勝地区の栽培形態では9月中旬頃からの収穫となり、これから肥大が進んでくる時期となります。7月23日時点では葉数が若干足りない点と首が細い点が気になりました。今後の天候が順調に進んでくれることを期待しています。

北見・美幌・富良野地区については現在弊社担当が順次巡回しております。またご報告をさせていただきます。7月30日現在、26日頃から北海道では大雨が続いている状況です。この大雨の影響が玉葱に及ばないことを祈るばかりです。

営業課長中村のマルチ便PLUS！ Ver2016



今月もどうぞよろしくお願いいたします。
8月のマルチ商事玉葱産地情報&見通しをお届けします！

| 取扱産地 | 産地状況 & 今後の見通し |
|-----------|--|
| 国産 | 北海道産玉葱が待ち遠しいです。8月の使用産地は前半佐賀、愛媛、埼玉、富山、宮城、岩手など府県の多産地にわたります。営業冷蔵庫に保管するなどコストをかけて品質維持を試みっていますが、品質が良いとは言えません。8月下旬頃からは北海道産を徐々に使用する予定です。 |
| 中国 | 山東省産を使用します。品質はまずまずで、数は潤沢です。まずまずの理由としては、中国から時間をかけて輸送する間に、暑さに触れる可能性があり、品質を劣化させることが毎年起こっているためです。今年の8月については輸入元とも連携し、良品の仕入に努めます。 |
| NZ(黄玉、赤玉) | NZ産の黄玉葱については品質劣化が始まり、黄色芽、青芽が発生しているため原料段階で再度選果をし、品質維持に努めております。8月末まで使用予定でしたが、少し早めに切り上げる必要が出てくるかもしれません。赤玉葱は品質順調。ただ、数量は少なく、9月上旬に一部北海道産へ切替予定です。 |

※本記事に関するご要望・改善等ございましたらお気軽にご連絡ください。
お問い合わせはコチラ⇒TEL049-258-5315